

総合講義Ⅱ

責任者・コーディネーター	微生物薬品創薬学講座 上原 至雅 教授		
担当講座・学科(分野)	微生物薬品創薬学講座、機能生化学講座、生体防御学講座		
対象学年	6	区分・時間数	講義 13.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

総合講義は、6年間の薬学教育の集大成を目指して、薬剤師法に規定される「薬剤師として必要な知識及び技能」の再確認を行う。総合講義Ⅱでは、基礎薬学分野の微生物学、生化学、生体防御学、医療薬学の感染症学及び薬品化学等に関して各担当講座が分担して講義を行い、薬剤師及び薬学関連分野での専門職において必要とされる知識を復習する。授業内容は各講座間で効率よく配慮し、最終学年の限られた時間を有効に活用して薬学教育の総まとめとする。

・一般目標（GIO）

微生物学、感染症学、薬品化学Ⅰ・Ⅱ、生化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生体防御学等の内容を総合的に復習する。特に微生物学、生化学Ⅱ、基礎薬学特論Ⅱに対応する最近の進歩を学ぶとともに、疾病と薬物に関連する部分を学習する。また、基礎薬学（生化学Ⅰ、生体防御学）のうち、疾病と病態（生体防御、免疫疾患）、医薬品の化学（生体分子）等について総まとめを行い、復習する。ヒューマニズム教科（薬学入門、医療倫理学）の復習も行う。さらに、医療薬学のうち、疾病と病態（感染症）、医薬品の作用（病原微生物に作用する薬物、抗悪性腫瘍薬）等について総まとめを行い、創薬の方法論も復習する。

・到達目標（SBO）

1. 細菌の構造と分類について理解する。
2. 生化学の立場から疾病と薬物を理解する。
3. 主な生体分子と医薬品との関係を、例を挙げて説明できる。
4. 免疫系を含む生体防御の働きを理解し、関連する疾病と病態を説明できる。
5. 代表的な感染症治療薬の作用機序及び臨床応用を説明できる。（☆）
6. 代表的な抗悪性腫瘍薬の作用機序、臨床応用を説明できる。（☆）

・講義日程

(矢) 東 201 2-A 講義室、(矢) 東 202 2-B 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/4	火	1	機能生化学講座	二井 将光 教授	総合的に微生物と細菌を理解
9/11	火	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生化学Ⅰ（医薬品の化学）
9/18	火	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御学（生体防御）
9/25	火	1	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御学（免疫疾患）、医療倫理学（ヒューマニズム）
10/2	火	1	機能生化学講座	二井 将光 教授	生物エネルギーから疾病を理解する

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/9	火	1	機能生化学講座	二井 將光 教授	生化学Ⅱで学んだ薬学として重要な事項をまとめる
10/16	火	1	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	微生物学と感染症学
10/23	火	1	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	薬品化学Ⅰ（抗感染症薬）
11/6	火	1	微生物薬品創薬学講座	上原 至雅 教授	薬品化学Ⅰ（創薬）、Ⅱ（抗悪性腫瘍薬）

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	生物学と薬学の狭間に -Aim Carefully Please-	二井 將光	学術出版センター (定価 2,000 円)	2011
参	やさしい微生物学	関水 和久 編著	広川書店 (定価 2,800 円)	2011
参	スタンダード薬学シリーズ3「化学系薬学Ⅱ ターゲット分子の合成と生体分子・医薬品の化学」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,600 円)	2004
参	スタンダード薬学シリーズ4「生物系薬学Ⅱ 生命をミクロに理解する」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 5,300 円)	2005
参	ベーシック薬学教科書シリーズ10「免疫学」	山元 弘 編	化学同人 (定価 4,000 円)	2008
参	化学療法学 病原微生物・がんと戦う	上野 芳夫、大村 智 監修（田中 晴雄、土屋 友房 編集）	南江堂 (定価 5,500 円)	2009
参	スタンダード薬学シリーズ6「薬と疾病Ⅲ」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 4,600 円)	2005
参	スタンダード薬学シリーズ8「医薬品の開発と生産」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 3,400 円)	2005
参	レーニンジャーの新生化学（上）第5版	川寄 敏祐 他 編集	廣川書店 (定価 9,240 円)	2010
参	レーニンジャーの新生化学（下）第5版	川寄 敏祐 他 編集	廣川書店 (定価 9,240 円)	2010

・成績評価方法

出席状況、聴講態度、レポート、定期試験等から総合的に評価する。